坂元小だより

鹿児島市立坂元小学校
学　校　だ　よ　り
令和７年１１月号
発行責任者：岩下修一

～やってみよう 頑張ってみよう みんなが笑顔の坂元小～

「時間を大切にすること」

坂元小学校　校長　岩下　修一

最近，日暮れがめっきり早くなりました。さっきまで明るかったのに，しばらくして外に目を向けると真っ暗になっていて驚きました。昔の人が「秋の日はつるべ落とし」（つるべ：井戸の水を見上げる道具，秋は一気につるべを井戸に落とすように早く日が暮れるの意味）と言ったのも頷けます。他にも，時間がたつのが早いということを表した言葉には「光陰矢のごとし」「一寸の光陰軽んずべからず」があります。この二つの言葉は似たような表現ですが，意味は大きく違います。

「光陰矢のごとし」は，月日がたつのが矢のように早いという意味で，矢は放たれると戻ってこないことから，時間も二度と戻ってくることはないので，毎日を大切にして過ごそうという意味で使われます。「一寸の光陰軽んずべからず」は，「少年老い易く学成り難し，一寸の光陰軽んずべからず」という中国の古典に由来した漢詩の一節です。これは「少年の時期はまだまだ長いと思って油断していると，すぐに年を取ってしまうが，学問はなかなか成就しない。短い時間であっても無断にせず勉強せよ」という意味です。このことから，「一寸の光陰軽んずべからず」は「わずかな時間も無駄にしてはいけない」という意味で使われることが多いです。

そういえば，子どもの頃は時間を長く感じていました。その頃は，短い時間でもとても楽しく充実した遊びができたのに，大人になると時間が短く感じられ，できることが少ないように思えます。大人も子どもも，時間は同じように過ぎているのに，どうして長く感じたり短く感じたりするのでしょうか。

一つの説は，生きてきた時間の長さによって，一定の時間の占める割合が変わることが挙げられるそうです。例えば，10歳の子どもにとっての１年は人生の５分の１ですが，30歳の大人にとっては30分の１となり，割合としてはとても短いものになります。同じ１年でも割合が違うため，短く感じるのだそうです。もう一つの説は，大人になると，生活が単調になり，毎日同じようなことが繰り返されたり，知っていることが多くて慣れてしまったりすると，同じことの繰り返しで，刺激が少なく，わくわくしたりドキドキしたりすることが減ってしまいます。単調な生活が続くことで，時間の流れが早く感じられるのだそうです。

ところで，先日，運動会を行いましたが，自分が小学校の時に経験した運動会を詳細に思い起こすことでした。低学年時はかけっこで速かったこと，おはら節で友人のお母さんが踊りを教えてくれたこと，鼓笛隊で小太鼓を担当したこと。地域対抗リレーで盛り上がったこと，何より，母親が毎年，朝早く起きて，重箱に特製の巻きずしを並べてくれていたことなどが思い起こされました。

先日の本校の運動会も，きっと子どもたちは，準備体操で「エクシード」をしたこと（５・６年生はかなりハードでした）。「大玉送り」でかなり接戦になりビデオ判定したこと。３・４年生は「マツケンサンバ」でノリノリだったこと。応援合戦で素晴らしい団結力を見せてくれたこと。青い空にバルーンリリースの風船が映えたことなど，すべて小学校時代の貴重な思い出として鮮明に記憶されたはずです。ですから，大人の私たちもですが，その時その時を大切にしていきたいものです。子どもたちに対して，これからも時間を大切にするよう指導してまいります。今後ともご理解ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

＊裏面もあります。